

校長あいさつ

第35代校長 早川 就

本年4月、本校第35代校長として着任しました早川です。

本校は私にとって、平成8年に高校から異動し初めて手話ろう者に出会い、その後の人生に大きな影響を受けた大切な学校です。そのような学校で校長として勤められる幸せと責任を同時に感じています。



さて、本校は昭和23年の開校以来、県南部の聴覚障がい教育の拠点として多くの実績を残してきました。特に近隣の幼稚園、小・中学校や短期大学等との交流教育、ボディー・パーカッションクラブ、サイレント・ジュニア・バドミントンクラブなど学外活動との連携など、「地域に開かれた学校づくり」には早くから取り組んできました。そして、平成16年の「言葉の森宣言」以来、同窓会や旧職員・卒業生の保護者による後援会の発足から、現在のNPO法人言葉の森くるめへとつながり、近年学校に求められている「地域に開かれた教育課程」と軌を一にする先駆的な取組が続いてきました。そのような中、コロナ禍を経て、又、現在進行中の校舎改築工事を機に、これからの時代と地域のニーズに応じた持続可能な本校の在り方、地域に愛される本校らしさの継続について、改めて検討すべき時期を迎えていると感じています。

本年度は、幼稚部4名、小学部1名、中学部1名の新生を迎え、全校幼児児童生徒48名と若干減でのスタートとなりました。全国的にろう学校（聴覚特別支援学校）は在籍数の減少により将来的な存続が危ぶまれている状況です。私が校長としてできることは、まずは本校で全職員がろう学校の存在意義をしっかりと認識し、保護者・関係者と協力して確実に子供を成長させること。そして、その成果を広く世間にアピールすることであると考えています。今年は初の国内開催となる東京デフリンピック2025が11月にあり、本校卒業生の出場も決定しました。本校ろう者、手話のことを広く世間に知ってもらおう絶好の機会でもあります。先日、小学部の児童が数名昼休みに校長室に来て、あるTV番組の企画に応募していいですか？と聞いてきました。私が事あるごとに子ども達の前で、ろう学校と手話のことをもっと沢山の人が知ってもらい、多くの子どもを集めたいと言っているのを聞いて、早速一緒に考えてくれたようです。実現できるかは分かりませんが、その気持ちと行動力をとっても嬉しく感じました。別のある日には、卒業して5年以上経つ生徒と保護者が訪れ、3年間貯めたベルマークをいただきました。また、本頁の私の写真の背景は、本校でずっと以前栄養教諭として勤められた先生が、毎月設えてくださる正面玄関の飾りです。このような子どもや支援者たちに支えられ、毎日仕事ができる幸せを噛みしめながら、本校で受けた恩を校長として精一杯返させていただくつもりです。どうぞよろしく申し上げます。